

# 面接授業へのいざない

—地域学習センターいきいき授業—

面接授業は、全国の学習センターで年間約3,000クラスを開講しています。中でもユニークな面接授業をいくつかご紹介します。



## 全国の面接授業①

北海道学習センター

### コミュニケーションの方法

担当講師/久保 隆徳(富良野GROUP)

実施日/2015年10月17日・18日

近年、メールや携帯、SNSなどを通じた人との繋がりが多くなり、言葉や文字に頼る事で、身体的レベルでの関わりをもつ場面が少なくなっているのではないのでしょうか。その為、相手のカラダどころか自分自身の身体的変化に意識がいなくなっています。人間は常にカラダから多くのメッセージを発信しています。それは言葉で語られるよりずっと豊かで深く、そして真実に近いものです。この授業はカラダを使って感じる事を通して学ぶ、ワークショップ形式で進められます。いろんなアクティビティ(活動)を通して、人と繋がる上で何が大切なのかを考え、それぞれの「気づき」や「きっかけ」を得て頂く内容になっています。日頃関わる事のない他の学生さんと一緒にカラダを使いながら授業のカリキュラムを通して、「身体的な関わ

り」の重要性について学んでみませんか。

#### 受講者の感想

「笑」の中で多くを学んだ2日間でした。演劇の基礎練習に使

われる簡単なゲームから始まるグループワークを行いました。何気ない動作にも「発信・受信・想像」が込められており、コミュニケーションは言葉だけではないことを再認識しました。様々な意見交換の中で自分の考えがまとまっていく様子は面接授業でなければ得られないものでした。(原佳子さん)



## 全国の面接授業②

千葉学習センター

### 三等船客の太平洋・移民船の頃

担当講師/藤村 是清(神奈川大学非常勤講師)

実施日/2015年10月17日・18日

日本史を世界的な人の移動という視点から眺めます。まずヨーロッパ移民が大西洋を渡る船で寝泊まりしたステアリッジと呼ばれる大部屋空間のイラスト。移民の波は米国東海岸をのみ込んだ後、西海岸に至り、西部の人口が激増した結果、太平洋航路が活発化し、これが日本開国の遠因となるのですが、さらに1867年(維新の前年)には米国が巨大外輪船を太平洋に就航させます。外輪船は一度に1000人もの中国人移民を運んだので、香港政府からエミグラントシップと呼ばれたのですが、福沢諭吉や岩倉使節団をサンフランシスコに運んだのもこの移民船だったのです。

このように開国・維新という日本の国際化の深層には、大西洋から太平洋への移民の拡大があったのですから、1867年の坂本龍馬暗殺をもってしても、もはやこの流

れを押しとどめることは不可能だったことを学びます。

#### 受講者の感想

太平洋を横断する大型木造外輪船には明治初めの頃、多くの中国人移民が乗

船していた。三等船客として香港から横浜を経て米・加州桑港を目ざしていた。金景気に沸く彼地に向け、多い時には一船で千人余もの人々を運んだ。当時渡米した福沢諭吉、高橋是清、新島襄は偶々乗合せ、その時の中国人の様相を夫々叙述している。先生が蒐集された統計を元にした解析と先人の観察により、中国人移民の様相がよく理解できた。今日的課題の“難民”に思いを馳せながらの受講でした。(高橋士郎さん)





## 素粒子で探る宇宙

担当講師/鈴木 洋一郎(東京大学国際高等研究所カブリ数物連携宇宙研究機構特任教授)  
実施日/2015年10月17日・18日

我々の周りには、見えない不思議なものが多くあります。目でみることのできないニュートリノとよばれる素粒子は、太陽の中心や超新星の爆発から大量に飛来しています。しかし、物質とほとんど反応しないため、最近までニュートリノに重さがあるかどうかすら分かっていませんでした。この不思議なニュートリノは、最近の研究により、宇宙初期の物質誕生の鍵を握っているのではないかと考えられはじめ、注目を集めています。

もう一つの見えない代表はダークマターです。宇宙全体で、我々の知っている物質、原子分子の5-6倍もあるとされていますが、その正体は謎です。しかも、宇宙の始めに作られたダークマターは、物質を寄せ集め、星や銀河を作る源だったといわれています。ダークマターがなければ、人類も存在していません。しかし、その正体は不明で、我々の全く知らない新しい種

類の素粒子ではないかとされています。この正体を解明しようと、世界中でたくさんの実験が、発見の一番のりを目指しています。

### 受講者の感想

この科目を選択したときはまだノーベル賞受賞のトピックスはありませんでした。授業のテーマは宇宙と素粒子、ノーベル賞の対象になったニュートリノの質量と、宇宙の解明に必須のもう一つの素粒子、ダークマターの探索についてです。ニュートリノの振動を観測した当の鈴木先生の授業は、物理学の標準理論を替えた歴史に直接触れ、次のXMASS実験でダークマターが観測できれば、又ノーベル賞を期待させる、刺激いっぱいの講義でした。(朴木健五郎さん)



## デジタルアーカイブ実践

担当講師/谷 里佐(岐阜女子大学文化創造学部准教授)  
実施日/2015年10月17日・18日

デジタルアーカイブとは、文化財、文化遺産をはじめとして、個人の日記、撮りためた写真にいたるまで、幅広いモノ(資料)をデジタル方式で記録し、保存、蓄積し、活用できるようにすることです。有形のモノにとどまらず、無形のモノー春夏秋冬の移りゆく風景や祭祀等の記録も可能としています。授業では、このデジタルアーカイブの理論と各種事例について学び、デジタルアーカイブに必要な各種能力を持つデジタル・アーキビスト資格や、デジタルアーカイブ実践例として、話とその説明資料を組み合わせる「オーラルヒストリー型デジタルアーカイブ」の作成実習を行いました。

オーラルヒストリーとは、個人や組織の経験を聞き取りし、記録を作成し、伝えるものであり、日本では、8世紀頃からの歴史を持ちます。ただ、口述に関する信頼性、不完全性への指摘も常に受け続けており、そ

れらの指摘にデジタルアーカイブがどう対応できるか、についても考察しました。

### 受講者の感想

デジタルアーカイブ実践として、2日間学ばせていただきました。仕事の書類やデータをまとめるのに役立つかなという程度の考えでしたが、授業を受けて、思っていた以上に深いものだと考えを改めました。資料の収集の仕方にもルールや世界的な指針があり、それらを使ってデジタルアーカイブを行うデジタル・アーキビストという資格もあり…。今回、学んだことを、仕事やプライベートで活用できたらと思います。ありがとうございました。



デジタルアーカイブ作成実習の様子



## 集団と群集の心理

担当講師/釘原 直樹(大阪大学大学院人間科学研究科教授)  
実施日/2015年10月17日・18日

本講義では集団や群集について心理学が明らかにしてきた知見を紹介する。具体的には集団意思決定や社会的手抜きなどの集団パフォーマンスについて説明する。さらにパニックやテロなどの集合行動についても詳しく述べる。このような集合行動は日常的に発生するものではなく、科学的分析の対象とはなりにくい。しかしそのような異常事態においてこそ人間の本性が露わになることが考えられる。「疾風に勁草を知る」という言葉があるが、集合行動が発生するような極限状況は人間の最も本質的と思われる部分、即ち愛や勇気、臆病や利己心等が顕在化する状況とも考えられる。そのために映画や小説などでは繰り返し、このような集合行動に関連したものが取り上げられている。しかし集合行動は心理学や社会学の学問研究領域のなかでは周辺的な領域としてしか扱われていない。本講義では集合行動を研究するた

めの方法(実験室実験、フィールド実験など)についても紹介する。

### 受講者の感想

面接授業は多くの受講生たちと一緒に、教室で講師の



先生から直接話が聞ける楽しく有意義な時間だ。この『集団と群集の心理』の授業では、私たちの考えや行動が常に、私たちが属している集団(家族、職場、社会、国家等)の影響を強く受けていることを学んだ。そして、普段の日常生活の中でも、大事故や大災害など異常な状況の中でも、集団や群集の言動に翻弄されることなく、自分を見失わずに賢明に行動することの必要性を感じた。(吉田裕行さん)



## 水循環と環境

担当講師/大上 博基(愛媛大学教授)  
実施日/2015年10月17日・18日

山〜里〜海〜大気へと廻る水循環に関する科学的な理解を通じて、私たちの住む地域とインドネシアにおける水田農業と水利用システム、および中央アジアの乾燥地における灌漑農業と水利用システムを例として、2次自然的水循環が環境に与える影響を解説しました。水田は、水を人為的に動かすことで、地表と地中の水の流れと地表から大気への水蒸気の流れをつくります。日本のような湿潤地では、水田の水が地下水を作り、イネと水面が夏の暑さを和らげています。しかし乾燥地では、地下水をつくるのが、塩類化という環境問題を引き起こします。

人々は水とその拠り所をどのような存在として見つめてきたのでしょうか。そしてそこには、どんな考え方や文化が芽生え、定着するようになったのでしょうか。

この授業のまとめとして、自然との調和という観点から水田農業の可能性を探り、水を使う活動の背景に

育まれてきた社会文化的側面を考察しました。

### 受講者の感想

資料の中で随所に問題提起があり、受講生自らが考え解答する緊張感と達成感があり、意義ある楽しい授業でした。



水環境は自然科学分野ですが、中でも水田農業は文化的、社会科学的側面があり、文学をはじめ、芸術、郷土文化等にわたり学際的の広がりがあることを知りました。また、水田農業の日本の実態とインドネシアの水利用システム、並びに中央アジアの灌漑農業における塩類化の問題等も学びました。現代社会において自然と調和する人間活動の重要性を再認識した、実り多い授業でした。(岡邊正一さん)



## 全国の面接授業①

### 岩手学習センター

## 妖怪学入門

担当講師/中村 一基(岩手大学特命教授)  
実施日/2015年10月31日・11月1日

水木しげる「ゲゲゲの鬼太郎」や、現在、子どもたちに大人気の「妖怪ウォッチ」の妖怪たちの成り立ちを、中世の「百鬼夜行絵巻」「付喪神絵巻」、江戸時代の「稲生物怪録絵巻」などの絵巻、鳥山石燕「画図百鬼夜行」などの妖怪図鑑などの妖怪画の源流に遡って考察しました。民間に伝承された怪異現象が名付けられ、絵師によって妖怪として描かれる経緯を明らかにしました。その上で、鬼・天狗・河童などに焦点を当て、平田篤胤の天狗論から、明治の新聞の妖怪記事、井上円了の妖怪学の方法を説明、柳田國男の「遠野物語」「妖怪談義」にみる妖怪観、宮田登の「口裂け女」理解など「都市の妖怪」論を考察、その妖怪観を批判止揚する小松和彦の妖怪学を説明、最後に、怪異的な現象から妖怪という存在への形象の問題を、京極

夏彦の「民俗学的妖怪」と「通俗的妖怪」の違いという視点を中心にまとめました。

### 受講者の感想

「妖怪」この魅力的で不可思議なもの、その正体を捕まえる授業でした。「妖怪ウォッチ」「百鬼夜行絵巻」などをもとに平田篤胤や柳田國男、水木しげるなど豊富な資料を駆使、日本人の妖怪観が説き明かされました。日本人の精神史、文化史的側面も学べ、先生が早池峰山麓の民宿で座敷わらしに会った話も興味深いものでした。(細野龍彦さん)



手振りを交えて熱演する中村先生

## 全国の面接授業②

### 秋田学習センター

## 新聞記者の文章(術)

担当講師/高橋 康弘(秋田大学副理事)  
実施日/2015年10月31日・11月1日

土曜日の夜。翌日も続く講義のことを考えていたら、胸が苦しくなってきた。そう、私はかつて経験のない緊張に包み込まれていたのである。

原稿用紙1枚。400字の世界にどれだけの「言葉」を盛り込むか。そんなことを考え、実際に原稿用紙に向き合うことを試みる講義だった。

「誰に何を伝えたいのかを意識する」

「書き始めの数行を懸命に考える」

限られた時間で、伝えるべきことはこの2点だけだった。皆で見出しを考えたり、論説を合作したり。エッセーも書いた。その中で、文章を書く作業は考えると同意語で、文章にはその人の生き様が映し出される、ということ逆を教わった。「知」を求め、挑む人たちと向き合う迫力。世代も幅広き方々の文章を読ませていた

だき、涙腺は心地良いぐらい緩んでいた。

### 受講者の感想

先生が記者として出会った方々との興味深い話や記事を通して、情報を扱う責任の重さと、新聞記者の世界を感じることができました。

現役アナウンサーの方の報道に対する思いなどに触れられたことも貴重でした。どのような考えも否定せず、その人の大切な感性だと認め、生徒一人一人の良さを引き出す、愛情深い講義でした。(金野志穂さん)



地元アナウンサーも講義のゲストに



## 動物の世界から学ぶ

担当講師/藤山 静雄(信州大学名誉教授)  
実施日/2015年11月7日・8日



ヒトは動物の一員ですが、他の動物にも予想をはるかに超えた不思議があり、知恵があります。その世界を知れば知るほど面白く、また驚きを感じます。

この講義では、生態学の視点から動物の世界をテーマ別に取り上げます。例えば『動物の防衛』では、敵を怖がらせる、敵の目に見えないよう化ける、敵の仲間のように見せる、敵から瞬時に逃走する、予想外の行動をとる等、多様な例を紹介し、動物の多様でしたたかな生き方を知れば、ヒトの自殺などはかなり防げるのではないのでしょうか。テーマ毎に動物で見られる事例を紹介し、法則性を示し、それを基に考察します。受講生にはそれを聞いて考え、意見を述べて頂きます。動物の世界への興味が広がるとともに、現代社会の考え方、生き方と比較し、皆さんがヒトの社会について今一度考える機会として頂けたら幸いです。

### 受講者の感想

前回「昆虫の生活と環境」を受講し、夫々の環境に適應する、多くの植物や昆虫をかなり身近に感じる様に

なりました。すると今迄平気だったことが気になってきました。(大宮以降、裏畑の胡桃林で

越冬する様になったカラスやモズの大群、晩秋の昆虫の大移動、等々) この講義では、生物の存在環境での適応・寿命(生存目的)・子育て・学習行動・動物同士の関係と競争・攻撃と防御・共生について、動物個体とヒトの特徴を比較し生物学的視点からもご教示頂きました。また、アリ社会でも公共財ジレンマの実例が発見されたトピックなど大変興味深く拝聴しました。生物多様性と地球環境変化の話に触れ、急激にエコロジカル・フットプリントを増やしてきた企業毎の効率化・高速化競争についても、全体的価値観を考える機会となりました。帰宅後、庭草(抜かずに軽く刈込むことに変えた)を、色々な植物がいるなど覗き、近くのテントウムシくん達に「これから休眠かい?」と声掛けしてみました。(中島誠さん)



## 毒にも薬にもなる植物とキノコ類

担当講師/橋本 敏弘(徳島文理大学名誉教授)  
実施日/2015年11月14日・15日



現在、日本は超高齢化社会になり、またライフスタイルの歪みからくる生活習慣病(癌、心疾患、脳血管疾患など)が社会的問題になっています。これらの生活習慣病に適合する副作用の少ない医薬品は少なく、生薬・漢方薬の重要性が見直され、臨床の場で実際の治療に貢献しています。中国医学の基礎知識を用いて、薬膳および医食同源(薬食同源)について解説した。また昔から言い伝えられていた食の効能が、最近科学的に証明されたことの話についても解説した。生活習慣病に効果のある食品(緑茶、ニンニク、大根、生姜、ワサビなど)、薬草(生薬)・漢方薬、キノコ類について解説した。また社会問題になっている危険ドラッグ、麻薬などの有毒植物、有毒キノコについて、写真を用いて解説した。講義内容に興味を持って頂くために、薬草及び香料の体験授業を行った。実際の薬

草・生薬を見て、触れて、匂って、薬効を知って頂いた。色々な精油を配合して、自分好みの香水を作りました。

### 受講者の感想

講義は軽妙なトークと冊子のような配布資料を参考にしながら始まり、今の時流にあったテーマで進行しました。初日は薬草茶の試飲タイムを含めて座学中心に行われ、二日目午後からは実習・体験中心の講座となり和漢生薬の実体験・皮膚にいい漢方薬の紫雲膏の実習。圧巻は本物の精油を使っの各自のオリジナル香水の製作実習など、多種の薬草茶を試飲しながらの講座で、びっくりするような多くの体験をさせて頂きました。次の講座が楽しみです。(分島孝さん)

自分好みの香水を作りました。



## 神・仏・菩薩の物語を読む

担当講師/柏木 寧子(山口大学教授)

実施日/2015年10月31日・11月1日

日本における超越観念のうち神・仏・菩薩をとりあげ、説話を素材にその諸相を検討します。かつて日本の人々が神仏と触れあって生活を営んだ痕跡は、現在も身近に見ることができ、とくに珍しいものではありません。しかし、神仏が実際のところ、どのような存在と考えられていたのか、土俗の人々の心に思いを馳せる機会は少ないのではないのでしょうか。授業ではまず、日本の神観念の基本、崇り神をめぐる説話を読み、次いで、不思議な因果としての仏法を描く説話を読みます。さらに、伝来当初は神秘的な外来神とされた仏について、どのように理解が深まっていったか、また、仏なき世で働く菩薩と人々との間に、どのように出会いが成り立つと考えられていたか、説話に即して検討します。

いつの時代でも人は、何かしら超越への思いをめぐらさずには生きていません。古人の思いを知ることが、迂路ではあっても、自身思索するときの手が

かりとなれば幸いです。

### 受講者の感想

これまで深く考えてこなかった神、仏、菩薩についての知識が深まった。テーマもユニークで

あり、興味深く、楽しく授業を受けることができた。先生の優しい語りと熱意は、次第に心の中に浸透し、今の自分を見つめ直すよい機会となった。神、仏、菩薩の物語を読むことを通して、過去の人々の倫理観や生き方を学び、現代人の進むべき道を投影することもできた。専門家の先生から、普段聴くことができない内容について、わかりやすく話していただき感謝している。



## 日本画の初歩・「富士山」を描く

担当講師/久保 千晴(京都日本画家協会会員・日本画家)

実施日/2015年11月13日・20日・27日・12月4日

絵は作者の心の象徴であり、その人の心を語っているものだと思います。私は作品のもととなるスケッチは、ありのままの姿を描くようにしています。精密に描くことも大切ですが、対象を体の中に染み込ませるために、より親しくなるように、いつも描いている気がします。日本画の初歩の課題には少し難しいと思われませんが、「富士山」は私たちにとってはすでに心の中にある特別な存在で、心象風景をイメージしやすいモチーフではないのでしょうか。

授業のはじめに「富士山」を描いた魅力的だと思われる参考作品をご紹介します。どんな「富士山」を描きたいのか、皆さんそれぞれアイデアスケッチ(小下絵づくり)からスタートします。次に日本画の材料の使い方、伝統技法を学びながら作品づくりを進めていきましょう。途中過程では、お一人お一人の作品に適した絵具の選択などアドバイスいたします。そ

して授業最終日には、皆さんの一枚のステキな「富士山」が完成いたします。

### 受講者の感想

・日本画という

芸術に人生で初めて触れ、奥行きのに驚きました。自分の思い描く絵は、描けませんでした。日本画を描く流れは学ぶことができました。自分自身、なんだか1upした気分です。

・何通りもの色を手間ひまかけて作り出した物を、絵に色づけしていく過程に魅力を感じる。日本画の細かさは、日本の美に通じるものがある。日本の四季の変化を表現する道具として古くから登場してきたのも納得出来る。

